



キャベツが高い!
組合に結集し生活改善を図ろう

● **中谷 慎一**

国労東日本本部 調査部長



●キャベツが高い! ガソリンが高い! 何もかもが高い! 国際紛争・円安・気候変動を背景とした物価高はとどまるどころか上昇の一途をたどっています。総務省統計では2020年を100として110.7で前年同月3.6%の上昇と公表されています。(25年1月24日) この一年物価の上昇に賃金が追いつかず実質賃金は下がる一方です。

そんな状況で今年も春闘の時期がやってきました。我々労働者にとっては新年度の基準賃金並びにその他の労働条件を決める重要な時期です。その春闘の歴史は1956年頃にさかのぼり経営者と交渉できるだけの力をもたない労働組合が産別にまとまり、同時賃上げを要求する形となり今の春闘となりました。1974年には狂乱物価を背景に「国民春闘」と名付けられ賃上げ率は33%まで上昇しました。

バブル崩壊後は雇用維持が争点となるなど、(2024年12月) 地代背景と経済環境によって変化しながら要求も多様化してきました。昨今労働組合の組織率は16.1%まで下がり(2024年12月) 労働者の権利である「団結権」「団対交渉権」「団体行動権」の行使も減りそれ自体が軽視される風潮があります。結果春闘の賃上げ機能も低下してきています。「会社

の良識に訴えれば悪いようにされない」と淡い期待を寄せる国民も少なくないのではないでしょうか。だとしたらGDP世界4位の日本で(韓国12位) OECD加盟国中日本人の平均年収は24位(韓国21位) という結果にならないでしょう。今こそ労働者一人ひとりでは弱い立場であることを自覚し労働組合への結集を呼びかけます。

●石破総理は施政方針演説で故堺屋太一氏の言葉を引用し「楽しい日本」を目指すべきとスローガンを示しました。明治維新以降富国強兵による「強い国」戦後の復興や高度経済成長の下「豊かな国」そしてこれからは「楽しい国」を目指すべきとしています。楽しい=幸福だとしたら、国民が幸福感を実感できるには何を優先すべきか具体策を示すべきです。そのためにも国民の声に耳を傾ける真摯な姿が求められています。

昨今、若手組合員と話をする機会によく耳にするのは「楽しい職場にしたい」という言葉です。石破総理のその言葉とは似て非なりです。職場の競争をなくし仲間を大切にする意識、協力して一生安心して働き続けられる職場をつくるという思いが込められた言葉です。「仲間づくり」から共に学び合い「組織づくり」へと発展させていきましょう。